

出水に備えて『洪水対応演習(土砂災害)』を実施



立山砂防事務所では、出水による土砂災害の発生を想定した洪水対応演習（土砂災害）を毎年出水期前に実施しています。この演習は、出水・土砂災害等における防災情報の迅速で的確な伝達・連絡を行うための総合的な情報伝達演習で、土砂災害等発生時の初動対応や応急対策の検討も行い、土砂災害が発生した場合に迅速かつ的確に対応することを目的としています。

日 時：令和7年5月9日（金）9：00～17：00

場 所：立山砂防事務所（3階 災害対策室）

参加者：職員全員

実施内容

- ①情報伝達の演習 ②マスコミ対応の演習 ③土砂災害発生対応演習 ④緊急対策演習
⑤ヘリによる現地調査演習 ⑥防災情報共有化システムを活用した演習 ※ 全て机上による

災害の状況（想定）

1. 体制状況

- ・ 7時00分 大雨洪水警報発表【富山市、立山町】
- ・ 9時00分 土砂災害警戒情報発表【富山市、立山町】
注意体制発令【立山砂防事務所災害対策支部】
- ・ 10時00分 警戒体制発令【立山砂防事務所災害対策支部】
- ・ 11時30分 非常体制発令【立山砂防事務所災害対策支部】

2. 土砂災害の発生状況

- ・ 常願寺川本川の津之浦砂防堰堤左岸下流約150mにおいて山腹崩壊が発生。
- ・ 崩壊規模は長さ約180m、幅約150m、平均厚約10m。崩壊土砂量は約270,000m³と推定。
- ・ 崩壊土砂は河川内に約100mの幅で堆積している。
- ・ 川の流れは一部確保されており、湛水は確認されない。

3. 立山砂防事務所の対応

- ・ 堆積土が流出した場合、下流に影響する可能性があるため、以下の対応を実施。
- ①関係機関への情報提供 ②土砂堆積箇所の監視 ③応急対策の検討
- ・ 崩壊斜面については、ヘリコプターによる上空調査及び災害協定会社による地上からのUAV調査を実施。また、監視カメラによる24時間監視体制を確保。
- ・ 堆積土の流出による被害防止のため、堆積土から下流約5kmに位置する栗巣野第1号砂防堰堤（スリット型砂防堰堤）のスリット部に異形ブロック（8t×198個）を設置し急な土砂流出を確実に捕捉させる。



演習の状況

ヘリ調査運行計画等の報告

現地状況等の報告

パソコンによるシステム入力

入力情報のモニター表示

情報の収集・整理・共有

応急対策の検討

【演習後の反省会での意見（抜粋）】

- ・ 関係各所への情報提供は、メールで行うのかFAXで行うのか確立しておく。
- ・ 報告様式において、報告時刻と現地確認時刻がそれぞれ記入できるように改善する。
- ・ 本部への報告はメール本文に概要を記載し、添付ファイルを開かなくても概要が分かるようにすること。
- ・ 誰が、いつ、どんな指示をしたか明確にするとともに共有すること。

等

今回の演習での課題や反省点を改善し、今後の災害対応に反映します。